



/N/A/C/R/I/

新学術創成研究機構

閉村とアート

2017年7月13日(木)

16:30 ~

金沢大学角間キャンパス北地区
人間社会第1講義棟204教室

(無料)

〈セミナープログラム〉

16:20 開場

16:30 ~ 16:35 開会挨拶

16:35 ~ 18:35 発表(各30分)

- 1) 「撤退の農村計画と文化資源」
林直樹(金沢大学・准教授)
- 2) 「ミュージアム・エデュケーションの可能性」
会田大也(東京大学・特任助教)
- 3) 「アートで地域を考えるー奥能登国際芸術祭に向けたスズプロの取り組み」
稲垣健志(金沢美術工芸大学・講師)

18:05 ~ 18:35 コメント及び質疑応答

司会: 谷川竜一

(金沢大学 新学術創成研究機構 助教)

連絡先: tryuichi@staff.kanazawa-u.ac.jp

〈セミナー開催趣旨〉

20世紀の都市や地域の計画技術は、人口増加社会を暗黙の前提としたものであった。しかし、世界でいち早く人口減少社会かつ高齢化社会に突入した日本の、特に地方農山漁村において、その技術は限界を露呈している。

地域社会の智慧や文化、芸術を、どのような手立てで継承し、持続可能社会の創出に向けて文化資源として用いつつ、人口減少の撤退戦を闘い抜くのか。この極めて刺激的な学問的フロンティアで活躍する3人の講師から、農村・ミュージアムエデュケーション・地域の芸術をキーワードに、その実践を発表していただく。

文化資源による 人口減少社会のデザイン

主催

・金沢大学新学術創成研究機構文化遺産国際協力ネットワーク
ワーキングユニット

共催

・金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター
・閉村とアート研究会

